

学校概要

創立 47 周年	学校長 三上 令子	副校長 大原 敦子	学期 2 学期制	児童・生徒数 236 人
学級数 一般級: 9 個別支援級: 2		主な関係校: 緑小学校 鴨居中学校		

学校教育目標

～「知恵だせ 汗だせ 明るい子」～
 (知) 自分の課題をもち、その解決に向けて取り組もうとする子
 (徳) 自分や友達のよさを認め合うことができる子
 (体) 自他の生命を大切にしようとする子
 (公) 地域の人やものを大切に、共に生きようとする子
 (開) 多様な文化を尊重し、社会に向かってひろい視野をもとうとする子

学校の特徴

- 竹山団地完成とほぼ同時期に開校した団地の中にある学校である。団地内には公園が多く、緑豊かで落ち着いた街並みである。
- 小規模校のため児童どうしの関わりが深く人間関係も良好である。また縦割り活動の充実により、異年齢の交流も活発である。
- 少人数のよさを生かし、個に応じた丁寧な指導を行っている。一人ひとりが活躍できる場も多い。
- 地域の方の学校に対する信頼は厚く、地域の方によるボランティア活動・出前授業など、学校に対して協力的である。
- 学力状況調査の結果は市の平均よりかなり下回っている。学力向上が大きな課題である。
- 家庭に課題を抱えた児童があり、他機関との連携をしながら見守っていく必要がある。

学校経営中期取組目標

- 子ども一人ひとりを大切に、子ども同士が互いに思いやり、高め合える学校づくりを目指します。
- ・分かりやすく楽しい授業を進めながら基礎・基本の確実な定着を図り、学力の向上と学ぶ意欲の向上を目指します。
- ・児童指導及び特別支援の充実を図り、楽しく豊かな学校生活を送ることができるようにします。
- ・地域への発信を積極的に進め、家庭や地域との絆を深めます。学校や地域を大切に育てる子を目指します。

小中一貫教育の取組

鴨居中	ブロック	鴨居中学校 緑小学校
9年間で育てる子ども像	基本的な生活習慣と基礎学力を身に付けた児童生徒	
自校の具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・「基礎学力を身に付けるための教材の工夫」をテーマにした授業をブロックで公開し、授業研究会を行う。(ブロックで2回行う) ・学校保健委員会を小中合同で開催し、共通の問題について取組むことにより、保健意識の向上と行動の改善を図る。 ・児童生徒交流日に合唱コンクールを参観したり、部活見学をしたりして、中学校生活に対する具体的なイメージをもつ。 ・教務主任、専任で児童生徒の様子について情報交換し、子どもたちを9年間で見取っていく。 	

重点取組分野	取組目標	具体的取組
確かな学力	個に応じた指導の充実を図り分かりやすく楽しい授業を通して基礎基本の定着を図る。また「学び合い」を重視した授業により、問題解決をする力を高める。	①朝学習を取り入れ、基礎基本の定着をする。②ユニバーサルデザインに基づいた教室掲示を行うとともに、ノート、用具などをそろえ、理解をしやすくする。③重点研究で「国語」を取り上げ、自分の考えを伝え合い、学び合う力の育成をする。④読書活動に力を入れ、言語能力の育成に努める。⑤新学習指導要領実施に向けて教育課程の編成に計画的に取り組む。
豊かな心	道徳の時間に3つの重点項目を中心に指導するとともに、学校の全教育活動を通じて自分や友達のよさを認め、自他を大切にすることを育成する。	①縦割り活動を充実し、遠足等の交流の場を通して異学年にわたる人間関係をつくる。②児童会を中心にして自主的な活動によるあいさつの推進、人権目標の具現化を図っていく。③運動会、コンサートなどの行事を通して一人ひとりの活躍の場を設定し自己有用感を高めていく。
健やかな体	季節に応じた体力づくりを推進し、めあてをもって運動することを通じて体力の向上を目指す。保健指導を通して、保健衛生意識を高める	①縄跳び、マラソンといった体力づくりを年間を通し推進することにより、体力を高め、運動に親しみ運動を楽しむ心を育成する。②歯磨き指導や保健指導を通して「自分の体は自分で守る」という生涯にわたる健康保持の習慣、意欲付けをする。③保護者へ保健に関わる実態を情報提供し、共同して健康づくりに取り組んでいけるようにする。
児童生徒指導	スタンダード「たけこルール」をもとに、全職員が同じスタンスで指導にあたる。不登校児童の登校支援をきめ細かに行うとともに、早期発見できるように見取りを行う。	①年間を通してあいさつ運動に取り組み、互いに声をかけ合う。②年2回のいじめアンケートの実施により、児童の友人関係の問題を早期発見し早期解決につなげる。③専任、担任が連携を密にして、組織的に児童の問題解決にあたる。④職員会議の場での児童理解の時間を活用し、問題について共有する。個票により6年間にわたり見取っていく。
特別支援教育	交流級と一般級の情報交換により共通理解のもとに指導を進める。関係諸機関との連携により、個に応じた適切な教育が行われるようにする。	①特別支援委員会を定期的に開き、交流級、一般級の情報交換を行い、指導方針を共有する。②特別支援コーディネーターを中心にして研修を行い、合理的な配慮など特別支援教育に関する教員の資質を高める。③療育、通級教室のセンター機能を生かし、助言に基づいた適切な指導が行われるようにする。
地域連携	地域行事や地域組織に積極的に関わることに、開かれた学校を目指す。保護者・地域に情報を発信し、共通理解のもとに児童の育成を目指す。	①地域が取り組む「竹山池の整備」に児童も参加して、「ふるさと竹山」というまちを愛する心を養う。②地域・保護者の出前授業を行い、たくさんの人に関わる機会を増やす。③学校便り、メール、HPなどで、情報を常に発信し経営方針について理解を得るようにする。④まち懇や保護者アンケートで学校運営に対する評価をいただき、改善に生かす。
いじめへの対応	「いじめは絶対ゆるさない」という学級、学校の風土づくりとともに、いじめ防止対策委員会の定期開催により情報の共有を行い早期発見、組織対応を心がける。	①定期的なアンケートの実施により、児童の悩みを早期に発見する。②YPアセスメントの実施により児童の人間関係をつかみ指導に生かす。③いじめを発見した際はいじめ防止対策委員会を中心とした組織的な対応をするとともに定期的にいじめ防止対策委員会を開催し日ごころから情報共有をする。④「いじめ根絶メソッド」等を使った研修を行い、教師の指導スキルを高める。
人材育成・組織運営	授業力、児童指導力が高まるよう、研修し教師としての専門性を身に付ける。ステージに応じた目標をもち、互いに高め合う教師集団を育成する。	①重点授業研究会により、授業力向上をめざす。②メンターチームの研修により、互いの教師力を向上させる。③主幹、学年主任といったミドルリーダーが学校運営に参画するために主任会を設け、学校運営の力を育成する。また、主幹がブロックリーダーとして学年経営に関わることにより、学校運営能力を養う。